

教育研究業績書

令和 4 年 3 月 31 日

氏名 帆谷 和 浩

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
(学位論文)				
1) 修士論文 「電子的コミュニケーション手段の発展と労働環境の変化」 —SOHOの形をとった勤務形態の将来性分析—	単著	平成 12 年 3 月	福井県立大学	電子通信技術の発展によりインターネットが成長を続けている。それに加え、パソコンの低価格化や無料OSが台頭してきている。伝統的な職場概念も変化しており、新しい働き方が生まれている。その中でテレワークという働き方が近い将来労働変革をもたらす可能性が高い。働き方改革を考察する。SOHOの在り方により、企業・個人の労働関係もピラミッド組織から横型ネットワークに移行して行く。その将来性を分析する。
2) 博士論文 執筆中	単著			
(学術論文)				
1) 「授業を創る」	単著	平成 6 年	時事通信社 (内外教育)	教育工学の観点から機器を活用して効果的な学習指導を確立 教室内ネットワークを活用してPCを使ったグループワーク学習指導
2) 「ダウンサイジング思想下での情報教育」	単著	平成 6 年	福井県商業教育研究 誌第 16 号	汎用機を用いないプログラム言語教育の将来と県教育研究所での情報教育の変革提言 ライセンス契約によるソフトウェアの導入で情報指導者の違法コピー防止、知的財産権保護等のモラル教育の必要性を説く
3) 「教育工学に基づく情報教育と実習室の構築」	単著	平成 15 年	福井県商業部会	天板裏にディスプレイを設置した機の制作とメディアボード・中間モニタ使用の座学でアルゴリズムを習得させ、天板を開き実習に移るといった切り替えによる授業展開を行う
4) 「インターネットを活用した地域参加型GISの構築」 —武生市西区における安全安心マップ—	共同	平成 18 年	地域公共政策学会	生徒・児童を始めとした住民が安全で安心できるまちづくりで交通危険箇所、不審者等の項目をHP上に提供を求め地図作成を提案 共同研究者：工藤進(福井県立大学教授)
5) 「労働法からみたテレワーク」—テレワークを取り巻く課題—	単著	平成 18 年	地域公共政策学会	公的機関や企業においてテレワークを実施するにあたっての就業時間等の就業規則の変革の考察
6) 「福井県立丹南高校での授業実践」— 「情報知力」を育む情報教育—	単著	平成 23 年	情報教育資料 (実教出版)	独自性を持った情報実習室の設計と導入で、分単位で行う授業展開の実践 メールに関する指導で情報リテラシーの学習科目の組み合わせとソフトウェアの比較学習でレポート作成の

				指導を行い全体的なスキルの向上を図る 他教科内容を情報活用で学ぶ姿勢の教育
(その他)				
1) 「FIT制度満了後の電源利用システムと地域防災支援の変革」		令和2年		太陽光発電と電気自動車からの受電システムを活用し、災害時に地域の支援拠点とするスマートハウスの考察
2) 「日本型テレワークの在り方と女性の働き方位置づけ」		令和2年		民家に多目的サテライトオフィスを構築し、テレワークの変革とそれに伴う女性の働き方変革の考察
3) 「分散型電力自立発電・自己消費社会の構築」ー太陽光発電システムとV2Hシステムでの序章ー		令和4年 3月16日	ふくい水素エネルギー協議会（講演）	地域および公共機関に分散化して水素発電システムを設置し、クリーンエネルギー供給への転換を図る。 同時に太陽光発電システムとV2Hシステムで家庭での発電・蓄電、自己消費をする社会を構築することを提案